九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

『ジャワ新聞』の美術関連記事 : 蘭印における日本軍政と「宣撫工作」

後小路, 雅弘
九州大学大学院人文科学研究院

https://doi.org/10.15017/1456216

出版情報：哲學年報. 73, pp.37-65, 2014-03-18. 九州大学大学院人文科学研究院
バージョン：
権利関係：

KYUSHU UNIVERSITY

『ジャワ新聞』の美術関連記事

―蘭印における日本軍政と「宣撫工作」―

後小路　雅弘

はじめに

アジア太平洋戦争占領地における日本軍政の文化施策あるいは「宣撫工作」と呼ばれたプロパガンダ活動と、それが東南アジアの近代美術に与えた影響について、筆者は概略を明らかにした（「日本軍政と東南アジアの美術」『哲学年報』第七二輯　二〇一三年三月）。しかし、各地域ごとの具体的な活動については、いまだ不分明な状態にとどまっている。小論は、日本軍政下でもっとも活発に文化的な施策が展開された蘭印（旧オランダ領東インド、現在のインドネシア）のジャワについて、具体的な情報が得られやすい現地邦字日刊紙『ジャワ新聞』（ジャワ新聞社）を中心に、グラフ雑誌『シン・ジャワ Djawa Baroe』（ジャワ新聞社）、『昭和十九年ジャワ年鑑』（ジャワ新聞社　昭和一九年　一九七三年ビブリオからの復刻版を使用）を併せて読んで、その具体的な事実を明らかにすることを目的とする。なお小論が典拠とする『ジャワ新聞』は、昭和一七年一二月八日から昭和二〇年八月三一日まで、ジャカルタのジャワ新聞社が刊行したもので、国立国会図書館新聞資料室所蔵のマイクロフィルムを使用した。巻ごとの内容は以下の通りで、多少欠号がある。

一、昭和一七年一二月八日～昭和一八年一〇月一七日（欠号　昭和一七年一二月一二～一四日、一九日、昭和一八年二月一二～一四日）
二、昭和一八年一〇月一八日～昭和一九年九月一五日（欠号　昭和一八年一二月一九日、昭和一九年一月二五日、二月四日、九日、一〇日、五月五日、一四日）
三、昭和一九年九月一六日～昭和二〇年二月一四日（欠号　昭和一九年一一月一九日、二〇日）
四、昭和二〇年一月一日～昭和二〇年八月三一日（欠号　昭和二〇年三月二五日）

『ジャワ新聞』等の美術関連記事抜粋

■啓民文化指導所の初顔合せ／一流芸能家を網羅　『ジャワ新聞』昭和一八年四月二日

ジャワ芸能家の関心と期待のうちに啓民文化指導所は二日ジャカルタ特別市ノールドウェーク三九番地に店開きをした。この日午前十一時清水宣伝班長をはじめ大宅壯一、武田麟太郎、飯田信夫、河野孝氏などの日本人指導員、サヌシ・パネー（詩人）ヤミン（文学者）アルミン・パネー（同）アグス・ジャヤスミンタ（工芸家）バスキ・アルズラ（画家）ウトヨ（音楽家）などジャワにおける一流の芸能家百余名が初顔合せを行ったが、なかに女流詩人として有名なビンタン・スジピオ女史、同童謡作家であり舞踊家であるマリア・アミン女史等の顔も見え、新生ジャワの文芸復興について賑な交流風景を描いた。正式開所式は天長節の二十九日挙行の予定である。＝写真は啓民文化指導所の初顔合せ【図版1】

1．啓民文化指導所の初顔合せ　『シン・ジャワ Djawa Baroe』第８号　昭和18年４月15日

■新生活美術展　二十九日から開く／啓民文化指導所の陣容成る　『ジャワ新聞』昭和一八年四月六日

四月一日から店開きをした啓民文化指導所では三日同所幹部をはじめ軍政監部関係者ら出席して協議の結果、正式開所式は来る二十九日の天長節、□□岡崎軍政監を迎えて挙行することに決定、発足最初の新事業として二十九日から二週間、同所で新生活美術展覧会を開催することになった。同展覧会はジャワの戦時家庭生活設計を広く全島から募集するもので戦時生活に即応した家具、衣服、生活様式の新設計を原住民の創意工夫の中から確立しようといふ計画である。

このほか伝統を生かしたジャワ特有の彫刻、絵画などの美術工芸品も出陳の予定であるが、優秀品は最高指揮官が買上げることになってゐる。なほ同所名誉顧問岡崎軍政監から四月三日附をもって同指導所日本人側ならびに原住民幹部、役職員を左の通り正式任命委嘱があった。

【名誉顧問】岡崎軍政監【顧問】亀田内務部長、尾崎文教局長　厨少佐、デワントロ、スタルンロ、ブルポチャラカ博士【評議員】アビクスノ、スタングノーンムリア、マリヤウルソア、ウェゲオングラッド、ウォンソイゴロ、ラトラギー博士、スワルト博士、スボモ博士、スンツクマン技師、スタンバムチャツク、バスキン、アブドラ、ヤミン、スジヨノ【所長】山本宣伝部長【総括】東郷教化課長【常任□務】清水宣伝班長【本部指導主任】大宅壮一【本部長】サヌシ・パネー【補佐】ドクトルブリオノ【本部附】山内□冨、坂田稔【文学部】指導委員　武田麟太郎　吉田百助、川名完治（部長）アルミン・パネー【美術】指導委員河野孝、小野佐世男、堤幸三郎（部長）アグスジャミンター（副部長）アヂヨノ【音楽部】指導委員飯田信夫、堤幸三郎青木正（部長）ウトヨ（副部長）クスビニー（演芸部）指導委員安田清夫（部長代理）ウイナルノ【映画部】指導委員大宅壮一。石本統吉、川名完治（部長代理）スタルト

■新ジャワ美術展迫る／絢爛　芸能文化の華　『ジャワ新聞』昭和一八年四月二六日

インドネシア芸能文化の指導機関としてさきに設立された啓民文化指導所は去る十八日開所式を挙げ新しきジャワ文化の建設をめざして発足したが、同指導所の最初の仕事として二十九日の天長節を期し「新ジャワ生活美術展覧会」が開催される。搬入は廿五日、二十六、七両日審査を行ひ二十八日招待日、二十九日から十日間指導所を会場として開かれるが、インドネシアの芸能文化のすべてがさうであったやうに旧オランダ時代にはインドネシアの美術絵画もまた旧蘭印当局の施策から全く見棄てられその指導奨励の芸術的機会なども与へられたことはなし、従っておほやけに主催する原住民美術展のごときは嘗て開催されたことはなかったのであるが、わが軍政によって最初の機会を与へられたインドネシア美術家は新たなる感激の中に出品作品の制作を急いだ。この機会に同指導所美術工芸指導委員河野鷹思氏にジャワ美術の現状を聞きインドネシア画壇の横顔を紹介したい。

◆美術界は白紙状態　啓蒙こそ我らの任務　河野氏の話

旧オランダ時代インドネシアとオランダ人の社会生活が全く切り離されてゐたやうに美術の分野においても双方の間に何の交流も影響されることも殆どなく、むしろその愚民政策のなすところにまかせてインドネシア自身も全く無関心に美術のことなど顧みなかったといふのが戦前までの実情であらう。従ってインドネシアの美術としていまとりあげて語るに足るなにものもないのはむしろ当然で、オランダ側でさへジャワにあったオランダ人は勿論、その本国においてすらかつてレンブラントを出しゴッホを生んだ誇りの名残すら留めずユダヤの財権に遮断されてゐたためその画壇は遠くフランスその他へ遁走してゐた。本国においてそのやうな状態にあったオランダ人の、いはんやジャワにおけるがごとき大部分が役人によって占められてゐた植民地にあって傑出した専門家の生れ得る筈もなく、ただ僅かにオランダ人以外の外国人美術家が旅行者としてジャワを訪ねた折、個展その他によって若干の刺戟を残したにとどまり最近のオランダそのものは全く美術的には貧困をきはめたといふより

ほかはないやうである。支配者であったオランダ自身でさへかくのごとき有様であったからインドネシアも芸術的には全く盲目化され彼らの祖先が有した美術の伝統をもかへりみず全く無関心に看過してゐた。彼らの祖先が残したヒンヅー文化の影響がいまなほバリ島においては優れた音楽、舞踊として或はバリ絵画として残されてゐるにくらべ、ジャワにおいてはその伝統につながるものは殆ど残されてをらず唯一ともいふべきボロブドールの遺跡があれほど我々の驚嘆を集めてゐるにも拘らずかんじんの原住民は一部の心ある者達を除いて殆どその価値を知らず、その存在をすら知らない原住民も多くあるといふ無関心ぶりで、また中部ジャワのバテック、銀細工或はバニユマスの陶器のごとき連綿たる伝統を有し古くは百年或は二百年以前のものには驚嘆に値する作品を残してゐながらいま作られてゐるものは完全に芸術としての高さを逸して職人的生産に□し去ってしまひ、手先小器用さだけがその生命となってゐる。このことは戦前まで行はれてゐた美術教育の一例を見てもわかるやうに彼らは単に模写することだけを学び、自然の実体を観察することも、それを把握することも学んでいない。過去の学童絵画展に出品された絵を見ても巧妙な模写を争ってゐるだけでそこに個性の現れは全く見られなかった。

　このやうな美術的無関心さのゆえに私は結論としてインドネシアの美術の現状はいま全く白紙である、といひ得ると思ふ。その白紙のうへになにものかを加へインドネシア文化の向上をはかることが我々日本人に課せられた任務の一つであり美術工作の意義もそこにある、幸い日本の有する日本画の感覚はワーヤンをたのしみ線の美しさうを愛するインドネシアの感覚にマッチするところが多分にあるやうでありこの方向の指導を試みることもあながち無駄なことではあるまいと思はれるが、しかしなによりもまづ彼らに対して求めなければならないことは彼らの有する伝統への反省と個性をつかみ出すことである。彼らの血のつながる伝統の流れの上に立ってこそはじめて民族の共感を呼び醒すことが出来、さうしてまたその共感が美術を通じて生活の中に盛りあがってこそ美術工作の機能も発揮されるのである。今回ひらかれる新ジャワ生活美術展はいまは白紙の展覧会であり、この

展覧会からインドネシア美術が再出発の第一歩を踏み出すわけである。

◆画壇の横顔

インドネシアの画壇に画家として名を連ねるものは僅かに二十五名前後といふ□々たるものでしかもその中には中等学校或は国民学校図画教師らが加へられ純粋に画家として一家をなしてゐたものはバスキ・アブドルヲ氏唯ひとりといふまことに振はざる状態であった。以下この振はざる画壇の中から僅かに代表的な画家ともいふべき六人の画家を訪れその横顔をのぞく。

◆爪哇画壇の雄　バスキ・アブドルヲ【図版2】

インドネシア画壇の中に自他ともに許す第一人者で彼の名はいまバンドンに住む姉の女流彫刻家トリジョトチヨクロスハルト女史とともに芸術家姉妹としてインドネシアの間では余りにも有名であるソロの出身で又アブドラ氏も風景画家としてインドネシア画壇の最高峰にあった。十数年以前ワーヤンの踊を描いて一躍名を挙げハーグ美術学校を卒業後フランス、イタリアなどにも学び本格的に修行を経て八年ほど以前ジャワに帰国、その後は殆どオランダ人の社会に入り込んでゐた。ジャワはもちろんメダンその他において数回彼の個展が開かれたこともあり人物画家としての彼の絵はわが国の画壇にくらべても水準には達してゐるらしく彼自身もわが藤田嗣治画伯の作品に親しんでゐるといふ。

昨年ジャワ派遣軍最高指揮官の肖像画を描いて以来日本人の間にも彼の名を知るものも多い。いまだ二十九歳の青年である。今度の出品作品は『洗濯女たち』『勤労』の二つで、働くインドネシアの美と力に主題

2．バスキ·アブドルヲ（アブドゥラー）『シン·ジャワ Djawa Baroe』第９号　昭和18年5月1日

をとらへている。

◆精力的作家　アグス・ジャヤスミンタ【図版3】

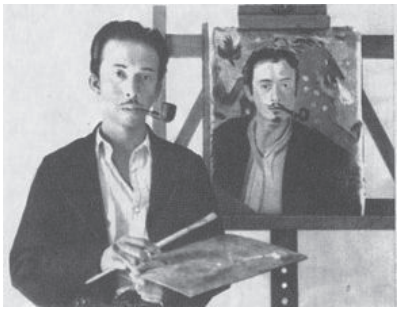
バスキ・アブドルヲを除く他の画家はその実力から見て殆ど水準以下ではあるけれどもインドネシア画壇の代表として存在をみとめられてゐたものはアグス・ジャヤスミンタとエス・スジョヨノ両者である。アグス・ジャヤスミンタは若冠未だ三十歳の青年であるがその芸術的実力よりも人格的に信望あつく戦前は中等学校教師であったが画壇の指導者として自らインドネシア画家のグループを主宰してゐた。皇軍上陸後も軍宣伝班にその存在を見出され人柄をかはれて初代ジャカルタ千早学校長を勤め、現在は啓民文化指導所美術工芸部長の位置にある。その絵も人柄をその儘反映して堅実な写実派でアカデミズムの色彩強く戦前にも数度展覧会に出品したことがある。

今回の出品作は「想ひ」「誇り」「待ち」の三点でいづれも人物を描いた百号大の力作で特に「待ち」は同夫人をモデルとした苦心の作、体つきに似合わず精力的な作家で大作を次々と仕上げている。

◆よき指導者　エス・スジョヨノ【図版4】

インドネシア画壇のかくれたる指導者で自ら貧苦にあまんじ画壇のために奔走してゐた、理論もあり実行力も豊富で見るからに温和さうな人がらだが外柔内剛、痩躯の中にいつも錚々たる闘志をみなぎらせた□□

3．アグス・ジャヤスミンタ『シン・ジャワ Djawa Baroe』第９号　昭和18年５月１日



4．S. スジョヨノ『シン・ジャワ Djawa Baroe』第９号　昭和18年５月１日

の男である。現在プートラ運動本部に働いてゐる。本年三十歳、アグス・ジャヤスミンタとは反対に反アカデミズムで自ら後期印象派風の作品を描く。

天才少年画家カルトノ・ユドクスモの義兄に当りカルトノ君の天才は同氏の指導に負ふところが多い。今回の出品は「S・P夫人」「アルーン・ヤハ像」

◆天才少年画家　カルトノ・ユドクスモ【図版5】

天才少年画家カルトノ・ユドクスモ君十八歳。現在ジャカルタ高等中学一年に在学中。現千早学校長ユドクスモ氏の息子。義兄スジョヨノ氏の□□□九歳のときから絵を習いはじめたがその□□□□したのがパステル画家矢崎千代治氏に見出されその薫陶をうけた。その□オランダの愚民政策にわざはひされあたら天才も□に世に出でぬかに見られたがわが軍上陸後軍政監部赤塚□雄氏（東京美術学校出身）にその天才を発見され同氏の指導により□□更に著るしき画境をなし昨年まだジャカルタ第三初等中学に在校中出品した十二月八日の大東亜戦争一周年記念ジャワ絵画展には諸先輩にぬきんでて見事軍政監賞を授与された。既に内地の画壇に天才少年画家の名だけは紹介ずみで近き将来におけるインドネシア画壇の第一人者として各方面から将来を嘱望されてゐる。

■伊東画伯を囲む座談会　熱心な質問の雨　『ジャワ新聞』昭和一八年四月二七日

目下来島中の伊東深水画伯を囲む座談会が二十六日午後二時からジャカルタ特別市ペガンサン・チモール三三に催された

5．カルトノ・ユドクスモ　『シン・ジャワ Djawa Baroe』第９号　昭和 18 年５月１日

出席者は同画伯のほか大宅嘱託をはじめ同じく宣伝部の河野鷹思、小野佐世男、吉田百助、清水斉各嘱託、インドネシア側からはスカルノ氏はじめスジヨヨノ、スリオスバンドリオ、スキルノ、アマド・テイクロアン君それにエミリア・スナスサさんの紅一点も加はつていづれも天長節を期して開催される「新ジヤワ生活美術展覧会」の出品者ばかり　この展覧会を新しい出発点として逞しく伸びようとするインドネシア画壇の人々は将来へ飛躍しようとする情熱を面上に表して日本画の歴史や現状、油絵のこと、いかにしたら日本の水準にまで達し得るだらうかなど専門的な技術上のことまで打明けて質問、また伊東画伯もこれを激励、芸術家のみが知る共感になごやかな雰囲気を醸しつゝ散会した

つづいて四時半から同所で同じく来島中の作家森田たま女史を囲むインドネシア作家の座談会が催された＝写真は伊東深水氏を囲む座談会

■スラバヤで伊東深水展　『ジャワ新聞』昭和一八年八月三日

伊東深水作品展は一日からスラバヤ市放送局階上に開催、同画伯南方旅行スケッチ四十点を展覧してゐるが日本画壇巨匠のかゝる試は初めてのことでもあり陸海軍人、一般邦人はじめ原住民達が多数来覧し、画伯の繊細な色感と力強い線に深く感動、殊に原住民達は素晴しく発達してゐる日本文化の姿を眼のあたりに見て今更のごとく感激してゐる、なほ同展覧会は五日まで開催されてゐる。

■全ジャワ美術展覧会蓋開け　『ジャワ新聞』昭和一八年一一月三日

苛烈なる決戦下に迎へる明治節を意義づける啓民文化指導所主催の「全ジヤワ美術展覧会」は三日から十二日までジヤカルタ特別市ライスウエークの同指導所分室を会場として開会されるが、これに先立ち二日午後三時半、

最高指揮官は軍政監、山本総務部長らとともに展覧会場に臨み、出品の指導に当つた河野鷹思、吉岡憲両嘱託の説明を受けて熱心に視察した

出品絵画はジヤワ全島の原住民から募つた二百五十点中から厳選した六十五点、オランダの統治下にあつては何等の意図も感激もなく商品画を描くことのみを目標として来たインドネシア画家達が、戦後僅か一年半にして斯くまで逞しい文化の花を咲かせた努力は注目される、彫刻は絵画に比較すると全く未開拓で五十余点の出品はあつたが僅かに一点が入選したに過ぎない　全ジヤワ美術展に臨場の最高指揮官

■明治節奉祝美術展覧会　『シン・ジャワ　Djawa Baroe』第二三号　昭和一八年一二月一日

ココニ　カカゲ　タ　ノワ　メイジセツ　ホーシュク　ビジユツ　テンランカイ　ノ　ジュショー　サクヒンデス

サイコーシキカンシヨー「マヒル　ノ　タ　ニテ」スルヨスバンドリオ

センデンブチョーシヨー「ワタ」（ポスター）スキルノ

グンセイカンシヨー「センソー」ジャヤスミンタ

ジヤワシンブンシヤシヨー「ハハ」バルリ

アシアラヤシヨー「ケシキ」ジヤヤスンタラ

■全ジャワ美術展ジョクジャで　『ジャワ新聞』昭和一八年一二月二二日

宣伝部ジヨクジヤカルタ地方工作隊主催の全ジヤワ美術展は富士映画館前で去る十九日から待望の蓋をあけたが連日各学校生徒の入場で賑はひ、二日間で観覧者九千人に達し好評を博してゐる、会期は二十三日まで

■オノ　サセオ　ジュウグンサクヒンテン『シン・ジャワ Djawa Baroe』第三号　昭和一九年二月一日

ケイミンブンカシドウショデ、二ガツ一ニチカラ十一ニチマデヒラカレタ。ミギハ、バリーノヲンナ。ヒダリハ、チュウブジャワノフウゾク　ススム　ユソウセンダン　カリヂヤチ　ヒコウジョウ

■原住民に芸術開眼　渇望を満す啓文指導員作品展『ジャワ新聞』昭和一九年四月五日

苛烈なる決戦を戦ひつゝも新しきジヤワ建設に邁進するわれわれにとつて戦争と文化とはすでに対立概念ではない、こゝに文化昂揚は同時に戦力増強の中に包摂さるべきものである、三日から開かれた啓民文化指導所主催の「指導員作品展覧会」はジヤワにおける文化の建設と推進めざして力強い発足をとげたものといへよう

具象的な絵画作品を通じて示された日本の精神と技芸は原住民に対する有効適切な指導であつた、それは単に技術的な指導を超えて戦ふ日本への無限の信頼と協力の熱意とを喚び起さずにはおかぬであらう

こゝに看過出来ない二つの要素はオランダ植民地としてかつてのジヤワにおける芸術的貧困と原住民の絵画に寄せる渇望である　レンブラントを生みフアン・ホツホを誇つたオランダもその伝統は植民地ジヤワではまつたく無縁であつて徒らにペンキ絵を家ごとに羅列してゐるに過ぎない、さうして当然原住民の芸術能力もきはめて素朴な状態に放置され、才能もないオランダ人が一時間十厘の教授料でデツサンを教へてゐるに過ぎなかつた

バリ島など素材の特異さでわづかに特徴づけられたジヤワに驚異と憧憬をもつて迎へられた日本人の絵画は原住民へはじめて芸術への眼を開かしめたものであつた、しかも音楽と同じく絵画への深い関心を持つかれらはこれを素直に受入れた、驚異が信頼となり協力へと進むのは当然の発展である、戦時下の現地における美術展覧会の存在理由はこゝに十分に理解さるべきである、他の諸部門におけると同様に文化建設の意義の一つがこゝに見出されるこの展覧会に蒐められた指導員諸氏の力作五十四点、毎日多くの熱心な原住民大衆を惹きつけてゐるが

専門的な芸術鑑賞家といふよりこゝから何ものかを学び何ものかを摑み取らうとするかれらの瞳の中に明るいジヤワの未来を展望するものである

■啓民文化指導員の作品展覧会　『シン・ジャワ Djawa Baroe』　第八号　昭和一九年四月一五日

原住民画壇の指導にあたつてゐる啓民文化指導所員五氏の、作品展覧会が四月三日から十三日までジヤカルタ特別市ライスウイクで開かれた。

■原住民画家の作品展観　五日からジャカルタ書店で　『ジャワ新聞』昭和一九年五月四日

皇軍進駐後始めて生れたといつてもいゝほどのジヤワ原住民の絵画もその後啓民文化指導所の絶えざる指導と原住民の素質と相俟つて驚くべき進歩を示し注目さるべき力作を多数出すに至つたが、現在のところこれを社会に出す機会も方法もないのでその進歩の状況も一部専門家の間のみに知られてゐるにすぎず、かたがた絵本のやうな版画さへも住宅設営などの目的のため飛ぶやうに売れてゐるので、ジヤカルタ書籍店では啓民文化指導所の後援を得て同店内に之ら苦心の作の展観を行ひ希望者には即売することゝなつた　第一回はジヤカルタ印刷工場従業員の絵画二十七点を啓民文化指導所絵画指導員の賛助出品とともに五日から二週間展示されるが、第二回以降は広く全島からの作品を集める予定である

原住民の絵画は一年か二年の間に指導員も驚くほどの上達を示してゐるが、ある程度まで来ると□の止る者も少くなく、かつまた、買手の趣味に合はせて自個（ママ）の個性を殺して売絵描きになるなどその天賦の素質を自ら攪拌する性質も多分に持合はせてゐるので、この点主な購買者たる邦人の鑑賞が望まれてゐる

■ジョクジャで画展　『ジャワ新聞』昭和一九年六月一一日

宣伝部ジヨクジヤカルタ地方工作隊では十日から三日間市内華僑総会演舞場で絵画展を開いてゐる、河野、小野、吉岡、田村、山本五画伯の力作三十余点を出陳、学生その他一般の参観者で賑はつてゐる

■日泰美術展を展く　『ジャワ新聞』昭和一九年六月二六日

日本文化会館及び東亜交通公社では絵画を通じた日、泰文化提携をはかるため泰國人の絵画作品を募集中であつたが応募作品百五十点中から六十四点を選出、六点の入選作をも決定、泰國革命記念日の二十四日から一週間バンコツクの東亜交通公社会場で日泰美術展覧会を開催、その授賞式が行はれた

■油絵〝敬礼する原住民勇士〟頼もしいこの面魂　防衛戦士を彩管の慰問　『ジャワ新聞』　昭和一九年七月五日

・・・ジャワの新進画家スバント・スリオバンリオ君（２９？）はさう力強く語るのであった。四日は防衛義勇軍ジャカルタ大隊の□□である。この日午前１１時半からスバント君の力作「敬礼する原住民勇士」の等身大油絵が奉公会中央本部長スカルノ氏の手を通じソチ（テ？）ン・カスマン大隊長へ寄贈されたのである。・・・

■「海の記念日」作品展覧会　『シン・ジャワ Djawa Baroe』第一五号　昭和一九年八月一日

「海の記念日」を記念して海軍報道班員石川滋彦氏の従軍作品展覧会が七月二十日から一週間啓民文化指導所で開かれた。右は義勇軍スケッチ。下右は引揚げ船、下左は木造船を作る。

■（コラム）戦列断想　今日の文化工作　土塊をほごしてかゝれ　河野鷹思『ジャワ新聞』昭和一九年九月二三日

とかく「文化工作」なぞといふと何か特殊な人達によつてのみ行はれる仕事のやうに扱はれがちである。戦争の勝利は「精神力」の結集である。「精神」が勝利を準備し、「精神」が勝利を維持するといふ。健全な精神が具体的に生活に表現されて始めて、即ち政治の中にも、経済の中にも、教育の中にもいはんとする所の協同主義的「文化」が樹立されるのであつて、こゝに文化工作の要諦があることを想へば、ジヤワの「今日の文化工作」は社会的、技術的、土俗的工作等々一切を含めて、ジヤワの実体をつかんでゐる健全な精神を持つ所の日本人の誰しもが分担して行かねばならぬ仕事であるといふ考へ方が要請されるのである。

政治の性格、社会の制度、生活の様態と切離されて「文化」はなりたゝない。「文化」と「文化的遺産」とは精神が生きて表現されてゐる、ゐないかといふ大きな現実によつて区別される。かつてのジヤワの宮廷文化が今そのまゝに博物館に絢爛たる夢を結び、ヒンヅー文化の遺跡が見る人々をして瞠若たらしめる最高の芸術であるといふことには全く間違ひはないのであるがこれを理解する日本人の数が多いからといつてそれに正比例して今日現在のジヤワの文化工作が日本人に只強制的に指導されていゝといふやうな理由にはならないし、又インドネシアの学生達が驚くべき上手さで日本唱歌を歌ひまくらうと、これをその儘日本的技術が普遍した力で目的に行き渡つてゐる証拠だとすることは早計なのである。例へていへば生産的技術、芸術的技術を担当する人達がその文化の技術的工作に関して的確な目標と計算された数字を基礎にして然もジヤワ全体を対象として辛抱強くインドネシアと取り組んでゐるのだといひ得るか、ジヤワの実体をつかんだ所の精神の上に立つて仕事をしてゐるか、といふことが問題なのである。

ジヤワを旅して車窓からながめて見よう。都会の駅を出てものゝ十分も経たぬうちに私達は一望何里といふ畑

の中で、黙々として働く農民の姿を幾度となく見かける。この人達は□茫と広い荒地を耕さねばならぬことを知りつゝも営々として足許の土塊に挑んで一鍬一鍬とほごしてかゝる。全く無表情である。働いてゐるといふことを他人に見せる興奮もない、狂躁もない。こゝの風景には映画で聞くやうな美しい音楽の伴奏もなければ力強い形式美も構成美もない。この人達の仕事には何時も辛抱強く続けられるところの日常生活だけがある。働くといふことの対象は表面に効果的である必要は全くなくて実質的であることのみなのである。さて、この態度と、ジヤワで挺身する日本人の心構へがひきくらべられ、「文化工作」の相貌について、一度も二度も考へさせられるのである。

私達の仕事は、この足許にころがる土塊を一緒になつてほごしてやることに出発する。汽車の窓から見つけたら飛び降りてすぐ始めてやらう。邪魔をするなと思はれたら道理を聞かう。教へてもらふ場合も勿論あるにちがひない。先方の道理が間違つてゐたら今度はこちらが徹底的に教へてやる。二人で夢中になつて手許が狂つた事に気がついたらすぐその場でやり直せばいゝ。只少しも休んではいけない。この営みが毎日毎日官□で、学校で、研究所で、工場で続けられて蓄積されて行く。健全な精神が手元にこもつてこの毎日の土いぢりを培つて行くうちに文化工作もそのいかめしい金字塔の土台が築き上げられて行くのである。何か特殊な人達だけが文化工作といふものをやるのだといふ概念はあり得べくもなく、自分を意識することだけに興奮しきつた頭でつかちの「ばけもの」が横行しだしたら大変だ。「まづ土からほごす」といふ態度である。形式はいらない。事実をして先行せしめるところのこの道が正しい秩序のもと、健全な具体的生活様態に表現されて、新しいジヤワは発展して行くのである。本当に勝利への力が結集されて行くのである。河野鷹思

■新ジャワ美術展評　理想を追ふ精進／独立認容の力強い影響　『ジャワ新聞』昭和一九年一一月七日

□□ごとに開かれる啓民文化指導所主催新ジャワ美術展は天長節、明治節を寿ぐことそれぞれ二回。ここに第四回目が三日からジャカルタ特別市錦通りの指導所分室で開かれ連日熱心な観衆を惹きつけてゐる。吉岡憲指導員にインドネシア画家の最近の傾向を聞く

独立認容の力強い□□が芸術活動にかくもはっきり現れてゐるのは注目して良い。制作意欲の旺盛さや全体の水準向上もさることながら独立認容を契機に〝民族の再発見〟といふか、インドネシア民族本来の姿を追求する真摯な努力が随所に看取される。これまでは物を描くだけでそこに何か明確な目的が把握されてゐなかったが今や増産、防衛、勝利と画因も主観も情熱と感激をもって描かれてゐる。造船所や鉄工所の増産□□□□、防衛戦士の気概、また独立認容を強調した作品がとくに目立つ。インドネシアの伝説を□つても□ひとか□□を描き、自分自身を見出さうとする努力に燃えている。

スロノの「□□」は空の色があくどく空間の描写力が貧弱で量感も出てゐない欠点はあるが相当の出来栄えといってよい。ヘンナントンの「バテック」も力作である。スジョヨノの「画家オット」のモデルは元啓民文化指導所美術部員オット・ジャヤスンタラが防衛義勇軍中隊長としての晴姿、百号の□□はやや大き過ぎるし手法も□□とはいへモチーフはなかなか面白い。アファンディは技術的に優れてはゐたが「乞食」といふ対象が非健康的なため採られなかった。□□□□□尾上等兵の「レンバン攻略」は最高指揮官に献上される三百号の大作で、軍務の余暇に制作された努力は感嘆の外はない。

いま美術館で二十名ばかり現地住民にデッサンを主とした基礎的訓練をやってゐる。これまでインドネシアの絵画はバリの絵が民芸として一部に取り上げられたほか何等見るべきものなしとされてゐた。実際かれらは器用ですぐ上手にはなるが物の形が描けるやうになるとそれ以上踏み出さうとしない。スランプではなく行詰まりで

ある。

今後は物真似ではなく民族の自覚と文化昂揚をめざす真の芸術の誕生を中□□□の中に期待したい。

■第四回新ジヤワ美術展　『シン・ジャワ Djawa Baroe』第二二号　昭和一九年一一月一五日

十一月三日から同十二日まで、ジヤカルタ特別市錦通り、啓民文化指導所分室で開催、出品作品点数七十六点。前回に比し水準は幾分向上したようだが総じて萎縮し、色彩に、筆致に南方民の持つ奔放明快さとその中に潜む情趣の失はれてゐるのが淋しい。

■ジヨクジヤで現地民絵画展　『ジャワ新聞』昭和一九年一二月一二日

啓民文化指導所支部では先頃ジヤカルタで公開された現地住民絵画展覧会出品作品四十七点をジヨクジヤへ移して十一日から展覧会を催した

■（コラム）戦列断想　侮蔑的な「原住民」　民心把握の立場から　スワルデー・タスリフ　『ジャワ新聞』昭和二〇年一月二〇日

旧蘭印時代において我々インドネシア人の最も気に障つたことは「インランデル」と呼ばれたことでありました。「インランド」とは内地のことでありまして、「インランデル」とは内地に元から住む人々で、日本語の「原住民」と同意であります。語学の立場からする「インランデル」の意味から離れ、オランダ人はこれに特殊な意味を含め、我々インドネシア人を地位においても、知識においても最も低い人種と見なし、インドネシア人を軽蔑する時は必ず「インランデル」といふ言葉を使つたのであります。「マア汚い、インランデルだからいゝんだ

よ」とか「インランデルだからそんな馬鹿な事は当然だ」といふことは毎日聞かされたのであります。我々に対する「インランデル」といふ名称は如何に当り障りのあることであるかを、また如何に我々の感情を害するものであるかをインドネシア人以外の人々は了解し得ないことと思ひます。我々はこの言葉を聞く度毎に言葉に表せない苦痛を感じさせられました。「インランデル」といはれることはどんな侮蔑の言葉よりも、打たれることよりも傷々しく、苦々しいことでありました。

オランダ植民地政策の桎梏下に呻吟してゐた我々はこれに対し何も出来なかつたのでありますが、三百年のうらみは今でも心の中に燃えてゐるのであります。昭和十七年三月九日無限の闇かと思はれた長夜が明けてジヤワに輝かしい日が訪れて来ました。神國日本の神兵ジヤワに来るや僅か九日間にして蘭印政府が無条件で降伏し新ジヤワが甦つて来ました。あの日の喜びあの日の感謝これに過ぐるものはありません。大御心の宏大無辺に対しこゝに限りなき感謝の誠を捧げると共に肉体挺身、決死敢闘せられた皇軍将兵の武運長久を心からお祈り致します。

新ジヤワが誕生した！インドネシア住民が神兵の温かい手によつて三百年の眠りから覚まされた。憎いオランダの植民地史が終了した。侮蔑もなく、傷々しい「インランデル」の言葉もありません。あゝあの時の喜び、あの時の嬉しさ。日本語で「原住民」といふ言葉があります。語学の立場から見れば何等の特殊な意味を持つて居ないが然し……「原住民」といふ言葉は所謂「インランデル」と同じ響を持つものでありまして聞く度毎に昔同様の侮りを自然に思ひ出します。軍政当局ではずつと以前から「原住民」といふ言葉を使用せず「現地民」といふ名称を使つてをられます。

しかも東印度独立容認後はその代りに「インドネシア」といふ名称を使つてをられるのでありますが、多数の日本人の方々は未だ「原住民」といふ言葉を使つてをられるのであります。我々インドネシア人に対し将来独立

することが認容されました。独立後もまた日本人と同生共死を一貫せんことを誓つたインドネシア住民の一人としてこゝに日本人の方々にお願ひ申上げます。それは即ち我々を呼ぶ時に、我々について話す時に「原住民」という名称を避け、「現地民」よりも「インドネシア」といふ名称をお使ひになつて頂きたいと思ひます。これこそインドネシア人の心を収穫するための一助であり、民心把握に資する道であると思ひます。【筆者は奉公会主催独立認容感謝必勝決意表明日本語演説大会の一等当選者で、すべて原文通り】

■勤労美術展覧会　八日からジャカルタで　『ジャワ新聞』昭和二〇年一月三日

逞しい勤労意欲を彩管を通して実現した勤労美術展覧会が八日から十五日までジャカルタ特別市錦通啓民文化指導所分室で開かれる。

主催同所、後援宣伝部ジャカルタ工作隊。主として原住民作品に加へ日本人指導員も賛助出品し総計約六十点、会場即売を行ひ売上金は全部勤労戦士後援会へ寄附される。スロソ、バスキルソボ両氏がスカネガラ開梱地へ挺身し一ヶ月の錬成の中から生れた作品二十数点が特に注目される。

■勤労者絵画展　けふから開く　『ジャワ新聞』昭和二〇年一月八日

勤労意欲を昂揚するため啓民文化指導所では既報のごとく八日から十五日まで勤労精神昂揚絵画展を開催する。出品作者はすべて勤労者としての経験者ばかりである。写真はバスキレソボ君の作「勤労者」

■ジャカルタ邦人絵画展覧会　『ジャワ新聞』昭和二〇年四月六日

激しい戦ひの下にも尚且にじみ出る邦人の高き情操、各々の職場に精励する寸暇をさき趣味の絵筆に描かれた

作品を一堂に集め諸賢の観賞に供する次第

一、会期　四月二十九日（天長節）より五月十五日迄

二、会場　興亜文化会館　ジャカルタ特別市大和橋北通り二番地（ホテル・デス・インデス前）

三、搬入期日　四月二十五日迄

四、搬入場所　啓民文化指導所美術部
　ジャカルタ特別市錦通り（レイス・ウエイク）一八番地　電話ジャカルタ二四七六番

五、出品作分類　日本画、油絵、水彩画、パステル、クレオン、素描、版画等々

六、出品者　（イ）邦人にして趣味に絵筆をとられる方々は遠方にても奮って出品ありたし、勿論ジャカルタ以外に在住の方々の出品も歓迎す
　（ロ）出品画には額縁を付し、裏面には出品者の氏名、所属を明記すること
　（ハ）軍病院に寄贈希望の方に対しては特に感謝す、尚売却希望者は売価記入のこと

七、審査委員　小野佐世男　吉岡憲　山本正　山崎光芳　三輪田元也

八、賞　優秀なる作品に対しては賞を呈す

主催　邦人報国団ジャカルタ支部
後援　軍政監部宣伝部　軍政監部邦人事務部　ジャワ奉公会啓民文化指導所　興亜文化会館

■美術指導者の展覧会『シン・ジャワ Djawa Baroe』第九号　昭和二〇年五月一日

美術指導者の絵画展覧会が、四月三日から十七日までジヤカルタ特別市錦通り啓民文化指導所展覧会場で開かれた。出陳点数六十、本誌の漫画でお馴染みの小野佐世男氏の軽妙な多数写生画の中に、本格的な画境を示すも

のがあつた。本展覧会を観た画家志望者は、各指導者個々の作品から、画材、手法、傾向などを鵜呑みにして直接真似することなく、作品を通じて各指導者の現在までの苦心と努力を偲び、自己独自の画境をひらいて闊達に画筆に精進すべきだ

■第５回新ジャワ美術展『シン・ジャワ Djawa Baroe』第一〇号
昭和二〇年五月一五日【図版６】

■参考『昭和十九年ジャワ年鑑』にみるプロパガンダ活動と啓民文化指導所

『昭和十九年ジャワ年鑑』（ジャワ新聞社　一九四四年　復刻版　株式会社ビブリオ　一九七三年）には「宣傳・報道」と題された項目があり、そこにジャワにおけるプロパガンダ活動の概略が示されている。それに

６．第５回新ジャワ美術展を報じる『シン・ジャワ』の記事

よると、日本軍主力とともに「蘭印方面軍宣傳班は、対敵宣傳の主要任務を帶び」てジャワに上陸し、オランダ軍降伏後は、「軍政の施行と共に宣伝部となり、軍政監部の内局として、戰時下宣傳報道業務を担当」した。その宣伝報道業務には「作戰間の宣傳期」「戡定直後宣伝期」「軍政透徹宣傳期」の三段階があった、とする。以下段階ごとに要点を略述する。

一、「作戰間の宣傳期」

宣伝班は、「敵戰意の破碎」「資源破壞の防止、皇軍將兵の士気鼓舞」「内地への報道、占領直後の民心の安定を計る宣傳宣撫工作」などを任務とし、「戰う宣傳隊として世界戰史上にもかつて無かつた尨大な文化思想戰部隊であつた」と位置付けられている。電波、写真、フィルム、音声、「紙の彈丸」ポスターや伝単類、アドバルーンなど、あらゆる手段を用いて、「重要任務を担当し得る広汎な職能人を班員として集め」、昭和十七年三月一日、ジャワ島に上陸。「三月九日、全蘭印軍無條件降伏に至るまで、幾多の重要任務を完うした」とされる。

二、「戡定直後宣伝期」

オランダ降伏後、「日本軍の真意を徹底せしめ人心を收攬すること」が、早急に行われる必要があった。上陸後ただちに放送を開始し、放送圏はジャワ全島及び南部スマトラ、南部ボルネオ、ロンボク島に及んだ。新聞は、まず「赤道報」と題する邦字版陣中新聞を三月九日より発行し、さらに現地住民紙の「中央指導紙」として、「アシアラヤ」を四月二十九日より発行した。

その間、住民に対する「啓蒙思想運動」として「三亜運動（日本はアジアの光　日本はアジアの母体　日本はアジアの指導者）」を展開した。

戡定直後の宣伝は「千早学校の開設、青年訓練所の創設、日本語學校の開校、日本語解說圖書の出版、其の他全島映畫館の監督、映畫製作の儻當、或は演劇の指導、宣傳資料の製作等」であった。この間、報道班は、宣伝

班員が兼務して報道検閲にあたり、後に宣伝班に合併された。

「ジャワ軍政機構は着々整備の緒につき、宣傳班は改組され、宣傳部として軍政機構の中に入り、戡定後、軍政草創の期における當部の宣傳工作上の緊急措置による業務を軍政機関に移管を行ふに至ったのである。」

三、「軍政透徹宣傳期」

「軍政監部宣傳部」となり、機構整備によって、宣伝部の業務は「他に移管され始め、昭和十八年四月」には終了することになった。ジャワ全島の放送機関は放送管理局に移管。アネタ通信社を接収して作った八洲通信社という宣伝班の通信機関は同盟通信社に移管。「赤道報」から「うなばら」と改題されていた陣中新聞はジャワ新聞社に移管し「ジャワ新聞」として発行されることになった。宣伝部が担当していた映画公社の仕事は、製作機構を日本映画社に、配給を映画配給社にそれぞれ移管した。学校、訓練所は文教局に移管し、検閲は軍検閲班に移管した。

宣伝班は、上陸後にジャカルタ、バンドン、ジョクジャカルタ、スマラン、スラバヤに分駐し、各地における「放送、映畫、啓民、演芸、檢閲、情報」などにあたっていたが、ジャワ軍政は「透徹期」に入り、前記各宣伝機関への移管によって、「地方への宣伝実施期を迎へた」とする。

昭和十八年四月、各州に宣伝部員が配属され、地方宣伝にあたり、さらに地域的により強化、統一したものにするために、地方工作隊を設置して最下部組織への浸透を図った。ジャカルタ宣伝本部は、宣伝、報道上の企画や指導、資料の調製を担当し、地方工作隊を、ジャカルタ、バンドン、ジョクジャカルタ、スマラン、マラン、スラバヤに設置、各工作隊は、地方への軍政の透徹を図った。

ジャワにおける宣伝活動は、「思想啓蒙」に重点があったが、第三期の「軍政透徹宣傳期」には、「單なる抽象的宣傳ではなく、具体的問題と固く結びつけられてゐる」という。つまり「郷土防衛宣傳を中心とし、防衛義勇

軍志願者の激励、之に伴ふ民防衛の徹底、供出米の促進、營務供出、食糧生産宣傳等に依る総力化運動」を推進した結果、郷土防衛熱が高まり、ジャワ防衛義勇軍への志願者が何倍にも増加したとする。

さらに軍政監部は、新たに「啓民文化指導所」というプロパガンダ活動の拠点となる組織を、昭和一八年四月二九日に開設する。以下主要部分を抜粋する。

■啓民文化指導所

設立の趣旨

三百年に亙るオランダ植民政策に虐げられて來たジャワ五千万民衆に適正な精神的導向を與へ、皇國の精神的文化的雰囲氣を醸成滲透せしめることは大東亞建設の根本要件なるに鑑み、圭として藝能文化の面から民衆の啓蒙自覺を促すべく、中央指導機関として昭和十八年四月、軍政監部によつて設立せられた。

事業方針

事業は極めて廣汎多岐に亙るが、これを概言すれば

（一）健全なる傳統藝能の保護助成と指導

（二）敵性或は不健全藝能の排除と新理念に基く純正文化の昂揚

（三）日本の國情と文化の普及紹介

（四）民衆娯樂の供諾とこれを媒体とする啓蒙宣傳

（五）藝能文化團体の統制と藝能文化人の養成

（六）大東亞圏各文化團体との連絡協力

等が主たるものである。

機構

本部、事業部、文學部、音樂部、美術部、演劇部の六部を置く。人的配置は專ら原住民を職員とし日本人は指導委員として軍政監部より派遣せられ両者協力して事業を運營してゐる。役員および職員は左のとほり。

顧問及び參與　若干名（軍政機関の関係部局代表者及び原住民より選任）

所長　一名（現在日本人）総務　一名（現在日本人）指導委員　若干名（日本人）部長　六名（原住民）部員若干名（原住民）

バンドン、マラン、スラバヤ、スマラン各市に支部を置き、地方文化事業の中心をなしてゐる。本部支部の所在地次のとほり。

本部　ジヤカルタ特別市ノルドウエーク三九　バンドン支部　バンドン市グルト・ホストウエ・ウスト五三　マラン支部　マラン市昭和通一一三　スラバヤ支部　スラバヤ市カリアシン八九　スマラン支部　スマラン市ボジヨン一五五

各部の事業内容は次のとほりである。

▽事業部＝各部事業の統制と連絡外部関係機関との連絡、日本及び大東亞共榮圈各地文化團体との連絡、啓民文化に関する各種事業、皇軍慰問並びに各種公共催物、その他藝能に依る啓蒙宣傳。今日まで軍政に卽應し実施した主要事業は宣傳部その他機関との協力による藝能各事業、郷土防衛精神の昂揚、增産促進奉公精神昂揚の各宣傳、藝能による皇軍慰問と民衆宣撫工作等である。

▽文學部＝マライ語機関誌 Keboedajaan Timoer（東方文化）の発行、飜訳事業、青年文學會の開催　大東亞小説募集、現地職場へ作家派遣、啓民文化講座の開催、外部との提携事業、新聞雑誌へ小説の提供斡旋、放送劇の創作出演、映畫脚本の提供、映畫台辞の飜訳、學校劇團その他各團体に対する演劇脚本の修文と提供、音樂部へ

の作詞提供、日本人作家との交驩、巡回慰問隊への脚本提供（以下省略）。

▽音楽部＝敵性音樂の排除、音樂團体の統制指導、ガメラン及び民謡の保存普及、混聲合唱團の結成　日本歌曲の紹介、新曲の発表、慰安宣撫工作等。（以下省略）

▽美術工藝部＝繪畫及び寫眞展覧會の開催、新聞雑誌及び放送による美術面よりする啓蒙宣傳と東洋美術古美術等の研究論文発表、毎月一回以上講演會開催、部内に研究室を設置し純粋美術、宣傳美術生活美術、生産美術研究指導等。年二回の定期展覧會の如きは全ジワの美術家は競つて應募し作品は莫大な数に及び、最高指揮官賞、軍政監賞その他の賞を授與、ジヤカルタはじめバンドン、スマラン、ジヨクジヤ、ソロ、スラバヤ、マランの各地を巡回する。不定期展としては伊東深水畫伯スケツチ展大東亞共榮圈寫眞展、小野佐世男畫伯從軍作品展等多大の成果を收めた。研究室は第一部第二部に分れ第一部は全ジャワの美術家を部員とし毎月二回以上研究會が開かれてゐる。第二部は二十歳未満のものを公募し実技試験の上入部せしめるもので現在四十五名の研究生が技術と精神の錬成に努めてゐる。現在指導委員は河野孝、小野佐世男、山本正、アグス・ジヤヤスミンタ、オツト・ジヤヤスンタラ、バスキ・ルソボウ、スバント等でスチヨリ以下七名の研究室第一部の委員が美術指導の助手として努力してゐる。

▽演劇演藝部＝啓蒙宣傳劇上演の奨勵、古典演劇演藝の傳統保存、健全娯樂の提供、劇團組合の結成促進。（以下省略）

なお、『ジャワ新聞』等の資料から、現地住民を対象とした軍政による全国規模の公募美術コンクール展「新ジャワ美術展」が、合計五回開催されたことがわかる。それをまとめると以下のようになる。

◆第一回新ジャワ生活美術展　会期　昭和一八年四月　詳細不明

◆第二回全ジャワ美術展／明治節奉祝美術展　会期　昭和一八年一一月三日～一二日　会場　啓民文化指導所分室（ジャカルタ特別市ライスウエーク）　絵画二五〇点の応募のうち入選六五点　彫刻五〇余点の応募のうち入選一点　なお以下の受賞作があった。最高指揮官賞　スルヨスバンドリオ『真昼の田にて』　宣伝部長賞　スキルノ『綿』　軍政監賞　ジャヤスミンタ『戦争』　ジャワ新聞社賞　バルリ『母』　アジアラヤ賞　ジャヤスンタラ『景色』

◆第三回新ジャワ美術展　昭和一九年四月二九日ころ　詳細不明

◆第四回新ジャワ美術展　昭和一九年一一月三日～　啓民文化指導所分室（ジャカルタ特別市錦通）　出品作品点数七十六点　スロノ『□□』、ヘンナントン『バテック』、スジョヨノ『画家オット』、□□尾上等兵『レンバン攻略』などが出品された。なおアファンディの作品について「乞食」という題材が「非健康的なため」落選。一二月一一日～　啓民文化指導所ジョグジャカルタ支部に巡回　四七点

◆第五回新ジャワ美術展　昭和二〇年四月　詳細不明

■参考文献

◆「南方新聞界の現勢　朝日／ジャワ・ボルネオの新聞（門田勳）」『国際文化』二七号　国際文化振興会　一九四三年九月

◆『昭和十九年ジャワ年鑑』ジャワ新聞社　一九四四年（復刻版　株式会社ビブリオ　一九七三年）

◆『Djawa Baroe シン・ジャワ』ジャワ新聞社　（復刻『ジャワ・バル―新ジャワ（南方軍政関係史料）』竜渓書舎　一九九二年　倉沢愛子解題）

◆町田敬二『ある軍人の紙碑―剣とペン』芙蓉書房　一九七八年

◆防衛庁防衛研究所戦史部編著『戦史叢書史料集　南方の軍政』朝雲新聞社　一九八五年
◆倉沢愛子「第六章　宣撫工作」『日本占領下のジャワ農村の変容』草思社　一九九二年
◆インドネシア国立文書館編著『ふたつの紅白旗　インドネシア人が語る日本占領時代』倉沢愛子・北野正憲訳　木犀社　一九九六年
◆カルティカ・アファンディ「父の思い出―画家アファンディ」『近代美術家シリーズ一アファンディ展』図録　福岡アジア美術館　一九九九年
◆『平成一六―一八年度科学研究費補助金基盤研究（C）研究成果報告書　近代アジアの美術におけるモダニズムの受容』課題番号一六五二〇〇八二　研究代表者後小路雅弘　二〇〇七年
◆朝日新聞「新聞と戦争」取材班『新聞と戦争』朝日新聞出版　二〇〇八年